みんなのしあわせのために

♣

ことしの新規・重点事業をみる

とにかく三十七年度予算は、農業の近代化をはじめとする三つの重要施策を中心に、意欲的な姿勢でスタートした。そこで、これらの施策を各部門ごとに、焦点をしぼりながら、その仕事の内容や計画について、あらましふれてみることにしよう。

（カット写真は芦北郡田浦町の甘夏みかんの収穫スナップ……これも成長部門のひとつである）

総務部関係

県民会館を建設

社会福祉会館、母子会館、婦人会館、青年会館或いは県立体育館等新設の要望が各方面からありましたので、その総合利用施設を新規に建設することにして、一億四千万円を計上した。

県庁舎の建設を準備

三十五年度から始めた県庁舎建設積立金は三十六年度末現在二億二千五百万円になり本年度も一億円を積立てることにした。そろ〳〵庁舎建設のための調査準備を始める必要があるので、調査費等七十万円を計上した。

民生労働部関係

引揚者住宅の建設

昨年に引続き青葉地区健軍地区の集団不良住宅八十四戸を改築して、住宅環境の整備をはかることにした。これで昨年改築分も含め百六十五戸が完成することになる。

炭鉱離職者の就労対策

炭鉱離職者の対策として荒尾南関線、荒尾長洲線の道路工事に一日五十八人延一万六千人の就労をはかるため三千一百万円を計上し、離職者対策を講ずることとした。

職業訓練施設を整備

熊本職業訓練所の改築が、敷地の関係でおくれていたので、本年あらためて建築費を計上すると共に、各職業訓練所の機械器具整備費、運営費等あわせて四千三百万円を計上した。

このほか、所得のない人や少い人を保護するための生活保護費と、保育所や児童のしあわせを守るための児童福祉費、あわせて十一億三千七百万円と、前年より二億七千四百万円増やした。

また文化にめぐまれないへき地の児童に、紙芝居や人形劇を見せたり、遊ぎの指導等を県の広報車を利用して実施することにした。

衛生部関係

松橋療護園に通園バスを

松橋療護園の定員は百二十名であるが現在の収容状況では、入園希望者を全員入園させるには相当長期間を要する見込であるので、通園バスにより熊本、八代地区に約三百名の入園できない肢体不自由児がいるのでこれを通園させて、治療や教育をすることにし、気の毒な児童に明るい希望をもたせることにした。

生ワクチンを無料で

小児マヒ対策として、予防接種は法律で定められているソークワクチンのほか、昨年にひきつゞき生後三カ月以上十三才未満の者に無料で生ワクチンを飲ませることとし、必要経費一千五百八十万九千円を計上した。

イエバエ駆除を一斉に

昨年流行した小児マヒの主な媒介体であるイエバエ、油虫を徹底的に駆除するため、薬剤を撒布したり改良堆肥舎を作る等各市町村の協力を得て実施する。そのための経費九百九十三万五千円を計上した。

結核と精神病の対策

昨年十月結核予防法の一部改正により、感染性患者の命令入所制度が大幅に拡大されたので、従来の命令入所患者百七十名を一挙に千九百八十七名に増やし、必要な予算を計上したが、本年度は更に新規分を含めて、二千百七人分の医療費四億七千百万円を計上し、感染防止に万全の手当をすることにした。

精神病対策についても、昨年当初の措置入院患者百十名を、今年は九百六十五名と、大幅に増加し、二億一千五百万円の医療費を計上した。

商工水産部関係

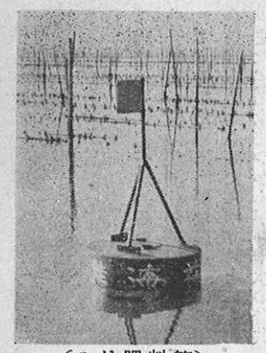
中小企業への貸付け増額

商工関係では、中小企業振興のための共同施設や、設備の近代化を促進するための無利子の貸付金「中小企業振興資金」を、前年より大幅に増額し、六千六百万円にした。

また、県下商工会の経営指導をするための経費三千八百万円を計上した。

密漁取締まり船を建造

あそ、はやての二隻では、年々増加する密漁船を取締まるのに不十分であるので、六トン、五十馬力の取締まり船を建造し、三隻で取締まりを強化することにした。



（のり肥料筒）

のり事業を振興

最近効果が認められたのり肥料筒を設置するための助成費や、流通対策の一環としてのり倉庫一棟を設置するための助成費あわせて七百万円で、のり事業の振興をはかることにした。

また、沿岸漁業振興のため、魚礁設置、投石施設事業を実施することとし、イセエビ、タコを主とする浅海増養殖事業を実施する。

農林部関係

農業近代化資金の枠も増額

農業の近代化を進めるには、特に金融対策、農協合併促進、果樹、畜産の振興、農地の集団化を重点的に実施する。なかでも借入れ希望が非常に多い農業近代化資金では、貸出しの枠を昨年当初の六億円から本年は一躍十三億二千九百万円に拡大するとともに、個人施設（共同化、協業化を含む）の場合、利子を七分五厘から六分五厘へ一分引下げることにし、債務保証及び利子補給等七千七百万円をもつて、資金の円滑な運用をはかることとした。

経営伝習農場の増員

また、農業の近代化に備えて、農家の中堅青年養成は、特に重要な問題であるので、本年より菊池及び鹿本経営伝習農場の定員をそれぞれ百二十名を百七十名に、また五〇名を百名へと、大幅に増やし、有能な農村青年を養成することにした。

また、農業改良と生活改良普及員の技術研修を実施するとともに、その活動を円滑にするためバイク、スクーターを百十七台購入することにした。

果樹振興を強力に

成長部門の果樹の振興については、大集団産地の造成を最大のねらいとし、あわせて流通部門の改善対策を強力におし進める。

そのため、果樹振興のための経費一千百三万円、流通改善対策のための経費一千五百十一万円を計上した。

その内訳をみると、前者では大集団産地造成のため指導費や、計画的生産をねらう適正品種統一のための種苗対策費、あるいは果実連技術員の産地駐在に対する補助などが含まれている。

後者では、オートメーション選果施設への補助や、販売宣伝の補助などがある。

このほかに、原種ほ設置の経費五百五十七万円、天草果樹指導所の移転改築費、芦北果樹指導所のほ場拡張（甘夏みかんを主体）の経費等も計上している。

畜産振興のために

新たに二百六十㌧、牧道十一キロメートルの大規模な草地改良事業を阿蘇で実施するとともに、従来から続けている牧野造成事業の三百十六㌶とあわせて九千七百万円で草地改良を実施することにした。

また、畜産物の流通対策の一環として、牛乳処理施設二カ所、枝肉冷凍室一カ所を設置するための助成費も九百七十九万円計上している。

また、県種鶏場にアメリカからブロイラーを購入し、肉用鶏の改良試験を実施するし、種畜場は畜産試験場とし、本館を新築して畜産振興の拠点とすることになった。

稲作の機械化を

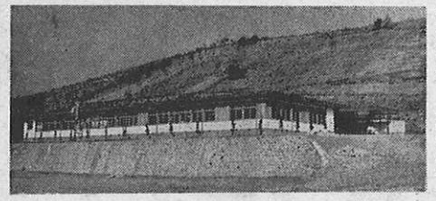
集団計画栽培を推進していくため、一地区を推進地区に指定し、また機械化をおし進めるため、三地区に特に力を入れることにした。

また、病害虫防除の徹底をはかるため、航空防除を約五千㌶にわたつて実施することにし、ヘリコプターの空輸費補助金百八万円を出すことにした。

林業も機械化を促進

林業の機械化を進めようと、森林組合に対して、集材機やチェンソー等を購入するための補助として百六十万円を計上した。

新設の林業研究指導所（上の写真）の内容を充実するほか、木炭の品質改善及び収炭量の増加をはかるため、木炭指導室を新たに設置することにした。



また、民有林の造林事業補助金として、前年より三千五百㌶増の一万二千㌶を対象とした。これで従来から累積していた未補助分の全額を精算する。